慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	会計学とは何ぞや
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.7 (1918. 7) ,p.955(81)- 960(86)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180701-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

（廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む）

△市内は御報次第參上見本豐富に御高覽に可供候▽
△地方は大略價格御年齡御報被下候はゞ見本及容易なる採寸法相送り可申候▽

△價格表
□高等裁縫部
△セビロ　三ツ揃　金三十圓以上八十圓位迄
▽オバーコート　金二十八圓以上九十圓位迄
▽レーンコート　金廿二圓以上五十圓位迄
▽フロック（一揃）　金五十圓以上百圓位迄
其他は御照會により可申上候
□制服部
▽專門學校（立襟）大學校　金廿圓以上三十七圓位迄

東京　銀座通　尾張町二

澤田洋服店

創業（於米國桑港）一八九一年

其材料の新しい
其型の氣のきいた
其技工の優れたる

▽澤田の洋服は
紳士的氣分に
最も能く融合して
御滿足最も愷かなり

彼れが創業以來三十年に近い永い經驗と厚い信用、それに日々の最善の努力とは廣く深く紳士間に好愛せらるゝ所以である△

御注文は……今直ぐに……はがき又は

電話新橋二三三七
振替口座八八二八

雜錄

會計學とは何ぞや

三邊金藏

凡そ如何なる學問に於ても是ぞ爭なき斯界の定義なれとて誇り得可き程のものを示さんは、難事中の難事なりとせらるゝところにして、誠に容易の業を以て目す可きものにあらざるが、吾人の此處に問題とせる會計學の定義に就ては、此感殊に深きものあるを見るなり。蓋し所謂會計學の定義は眞に十人十色にして彼此互に相同じきもの殆んど在ることなきの狀態にありて、而して其然る所以の理由は、畢竟するに、會計學が學として成立せるの日今尚ほ甚だ淺くして其領域未だ必しも明確ならざる其結果、學者各々自ら好む所に從ひて廣狹の範圍を定め、其定めたる所に從ひて又自らの定義を立つるの風ある這個の事情間に伏在すと謂はざる可からざればなり。然れども、他方に於て、會計學既に一個の學たりとせば、其は必ずや其自ら對象を有す可きにして、而して既に其自らの領域を有し、其自らの定義を有せざる可からずと謂ふを得可きなり。乃ち今試みに二三先輩の定義をとりて批評的に之を審査し、行く行く吾人自らの卑見を開陳するところある可し。

先づF. W. Pixley 氏及 H. C. Bentley 氏の定義を掲くれば各左の如し。

會計學とは個人的性質を有すると、商企業的又は財政企業的性質を有することを問はず金錢上の各種取引の記錄方法を攻究する科學なりと稱し得可くして、是を（一）組織的（二）

記錄的(三)解剖的又は批評的の三部門に分つを得可し。(Pixtey ; Accountacy. P. 4)

「會計學とは、恰かも數學が算術、代數、幾何三角術等を包括する總稱たるが如く、簿記、監査、及組織構成等を包括する總稱たり」(Bentley ; The Science of accounts. P. 77)

次に George Lisle 氏は其著 Accounting in Theory and practice に於て稍狹義に之を解し

「會計學とは富の生産及交換に關聯して生せる取引に關する記錄方法を研究し、富の生産分配、及交換の上に生せる取引の結果を明にする科學なり」

と定義せり。

最後に H. R. Hatfield 氏は最も狹義に之を解釋して左の如き言をなせり。

「會計學の本質は、第一に一定時に於ける事業の財政狀態を精確に現はし、第二に一定期間内に得られたる結果を示すに在り。前者は貸借對照表に體現し、後者は收益表又は損益表に體現す」

以上の諸定義は偶ま座右に在りたる會計學書に就き搜索し得たるものを多少の次序を立て此處に收錄したるものに外ならざれば、會計學の定義全部が是に依りて代表せられありと考ふるの背理たるは勿論たりと雖然かも會計學の定義に廣狹種々の區別あるの實は、是に依りて略ぼ之を推察するを得可しとして、以下是等三種の定義に就き其何れが最も當を得たるやを考ふるに、會計學を解して一般に會計に關する學なりとなし、而して會計の定義を貨幣又は貨幣價値あるものゝ收支計算なりと解するときは、會計學とは誠にピックスレイ氏及ベントレイ氏の言ふが如きものたる可くして、從つて所謂廣義の定義を以て最も當を得たるものなりと謂ざる

可からざるに至る可し。蓋し既に廣く收支計算に關する學たりとすれば、記帳の始より監査の終に至るまでを其中に包含せしむるは、寧ろ當然の事理たる可くして之を非難す可き理由は毫も之れあることなければなり。

然れども會計學の意義を斯の如く廣く解するときは、邦語にて簿記、會計學と謂ひ、英、米兩國に於て Book-keeping and Aucounting 又は Accounting and Anditing と謂ひて會計學の意義を稍狹く用ゆるの風あるは、例へば數學と代數學と云ふが如き種類のものにして、何れも共に誤れりと言ふの外、別に之を說明するの途なきに至る可し。然かも是は之れ然かく遽かに首肯し得可きことなるや否や。凡そ同一語に廣狹種々の意義を附するは、如何なる國の用語例にも屢其實を見るところにして、決して稀なる事象たらずとす。而して然る時は、狹義に於ける其意味は字義的に之を繹ね得る所と概ね相同じからずして常に多少の屈折を見るの實あるなり。然れば斯る場合に於ては、吾人は字義的に繹ね得たる所を以て妄りに其當否を忖度せず、却つて審に其意義を勘ざる可からざるなり。乃ち今吾人當面の問題に歸りて、會計學の意義に就て之れを考ふるも、字義的に是れを解すれば、簿記、監査の如きは何れも其一部たるに、然るに日常實際の用語例に於ては上述の如く、是れを簿記、監査と並馳せしめて敢て之れを疑ふことなしとすれば、是は之れ偶ま此語に、其何たるやは暫く措き、別に狹義の意味あるを語るものに外ならずと謂ひ得可けんなり。彼のライル氏が會計學を狹義に解し、監査を其範圍外に置けるは、此見地よりすれば確かに其當を得たるものと稱す可きにして、斯くてこそ會計學の領域稍明瞭を加へたるに近しと謂ふ可からんな

り。

然れども又ライル氏の如く、會計學の任務は取引の記錄方法を研究し其結果を明にするに在りとなすときは、會計學と簿記との區別果して何處に在りや甚だ明なる能ずして、彼處に於て得たるところを再び此處に失はんとするの懼ありと謂ふ可し。想ふにライル氏は、簿記と會計學との區別を認めざる學者の側に屬する者にして會計學とは簿記の別名に外ならずと思考するものなる可しと雖、然かも簿記と會計學と同一事を意味するものなりとせば、世人が其呼び慣れたる彼の名稱を捨て、代ふるに新しき此名稱を以てせるは何故なりや其説明なかる可からず。抑も彼等は其古き衣に厭きて新しき衣を裝ふが如く、古き看板に厭きて新に是を塗り替ふるが如く然りしものなりや否や。私かに思ふに、是れ皆然らざるものなり。然らば其理由果して何處に在りや。且つ夫れ一歩を進めて審に之を察すれば、世人は必しも簿記と會計學とを相互代替的に之を使用する者にあらずして、却つて兩者の間に微妙なる相違を立て、二者同一ならざるかの如く解するの風あるなり。而して此事實は實に偶ま彼等自ら其區別を明瞭にせずと雖、然かも既に彷彿の間に二者の相違を認め居るを語るものにあらざる可きや否や。凡そ是等の點は、ライル氏及其一派によりて説明せらる可き筈のものにして、然かも未だ其説明を得ざるものなり。即ち吾人がライル氏の定義の中に自らの滿足を發見する能ずして、去つて他に趣かんとする所以なりとす。

然らば最後にハットフィールド氏の所説は如何。ハ氏は會計學本來の任務は正確なる貸借對照表と損益表とを作成するに在りとして、記錄方法の研究たる簿記と嚴密に之を區別するが故に、兩者の相違は氏の手に依りて一應完全に闡明せられたるやの觀ありて吾人の最も尊重するところなりと雖、然かも委細に之を察すれば、正確なる貸借對照表と損益表との作成は、簿記に於ても亦た等しく努むるところにして、簿記の全過程は結局之が爲めに存すと謂ふも決して過ぎたりと云ふ可からざるを見るなり、從つて兩者區別の標準を此點に、求めんとするは、少くとも未だ立言の全きを得たるものと稱す可からずして、折角の區別又再び曖昧裡に沒し去らんとするの懼ありと謂ざる可からざるに似たり。即ち軈て氏の説の缺點を以て目す可きところにして、吾人の私かに氏の爲に病む所なりと雖、然かも氏の説の此缺點は、寧ろ立言の表面に在りて決して思想の内部に存するものと謂ふ可からざるを見るなり。蓋し氏の意は正確なる貸借對照表と損益表と作成せんと欲せば單に記錄方法の研究のみを以て足れりとなす可からず、必ずや更に一歩を進めて貸借對照表作成の資料として用ゐられたる所謂棚卸表（インヴェントリー）に就て其各項目の示す數額が合理的に評價せられたるものなりや否やを研究せざる可からず、然かも此方面の研究は從來の簿記に於ては最も忽緒に附せる所にして、實に我會計學が其固有の任務として新たに追求するところたるなりと謂ふに在りて、而して氏の意を斯く解するときは、吾人は其説の正しきを見て未だ其誤れるを見ざればなり。

乃ち今此意に基きて試みに是れが定義を下せば

會計學とは正確明瞭なる貸借對照表と損益表の要件たる各項目の評價原則と其記載方法とを研究する規範學なり

と謂ふを得可し。而して會計學の意義を以上の如く定むるときは、簿記及監査に對する其關係

は自ら明なるを見る可し。蓋し簿記は會計學の闡明したる原理原則に準據して初めて其自身の職責を全ふするを得可く、監査は助を此處に借りて當否を判斷す可き準繩を得るに至ると謂ふ可き次第たればなり。

戰爭と信用通貨幷に財政（三）

堀江歸一

第二章　第二節　銀行の狀態（續）

二、市中諸銀行（續）

(2)、預金の增加。千九百十六年中市中諸銀行の預金は二億七百十三萬四千磅の增加を示したるが、此增加の原因たる、千九百十四年幷に同十五年に於ける異常の增加と同じく、政府幷に銀行が各種の形態に於て、信用を製造したるの事實に存するものとす可し。元來銀行が軍事公債に應募するときは、取引先の預金に增加を惹起さゞるを得ず。即銀行は公債に應募するや一方に政府と契約し右の應募に對して拂込む可き金額を政府に物資勞力を提供したる銀行取引先の預金勘定に移すを得ればなり。又千九百十六年中銀行全體の預金に二億七百十三萬四千磅を增加したると共に、支拂準備金に一億一千三百萬磅の增加を來したり。此增加は政府に對する市中諸銀行の一時的貸出、市中諸銀行の所有に屬する政府紙幣の增加、政府紙幣償還資金に對する政府の取付に基き、銀行の取引先が現金を以て引出すよりも多額の預金を爲したるが故に非ず。而して預金增加の支拂準備金增加に比較して大なるは當座幷に短期通知資金に於ける增加二千萬磅、割引手形に於ける增加四千九百萬磅、普通の取引先にして政府より支拂を受けんとする者に對する貸付金の增加三千五百萬磅の存するが故にして、是等の金額に現金準備金の增加を加ふるときは、二億一千七百萬磅に上る可く、其預金の增加に對して一千萬磅の相違あるは、英蘭銀行以外の銀行紙幣流通高の增加七百萬磅、銀行積立金の減少百萬磅放資の減少四百萬磅あるが故なり。更に千九百十六年末と千九百十三年末とに就て、銀行の取引先に對する當座勘定を比較するに、前者に於て四億八百萬磅の增加を示し、一年の增加割合一億三千六百萬磅にして、戰前即ち千九百四年より同十三年に至る平均增加三千萬磅に對して、異常の膨脹を告げたることを知らざる可からず。

銀行信用と取引先の預金との關係を明瞭ならしむる爲め、委員會の一員は兩者の關係を律する根本原則に關して、左の如き要項を報告したり。

(A)銀行預金が平時に於て增加するは、主として信用の膨脹に基くものなり。千九百四年より同十三年に至る十年間銀行預金は每年平均三千萬磅を增加したるが、此內二千七百萬磅は銀行の信用膨脹に基き、取引先が法貨を以て預入れたる金額の其引出したる金額に超過したるは僅に三百萬磅に止まれり。

(B)銀行が引續き社會に信用を供うる間は銀行の預金債務は之に伴つて增加す可し。蓋し銀行が債務を負はんか、其債務にして法貨を以て取付けられざる限り、銀行の帳簿に於て債權の記入せらるゝものある可く、銀行の預金の約九割は銀行の信用の膨脹したる結果に外ならざればなり。

(C)銀行にして所謂信用の管理者たる以上は、其取引先に對して貸付金を爲すや、單に取引先の爲めに、帳簿上の振替記入を爲すに